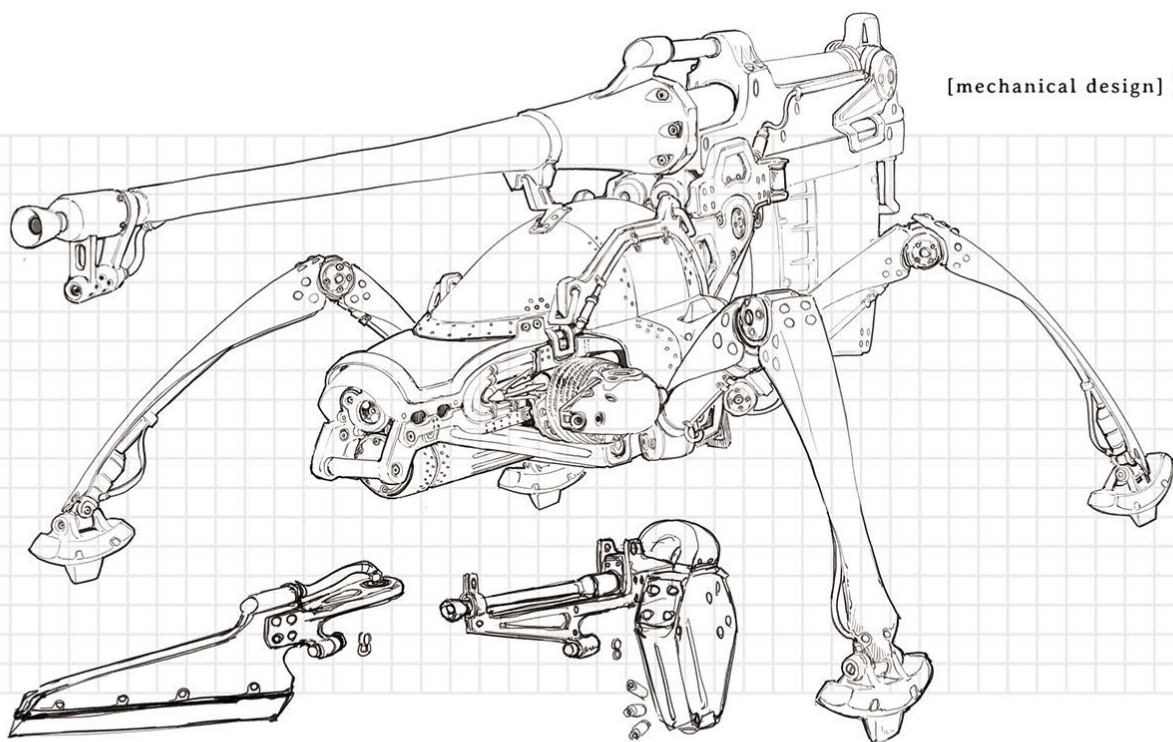


[mechanical design] I-IV



サンマグノリア共和国製“無人機” 〈M1A4ジャガーノート〉

【SPEC】

【製造元】共和国工廠（RMI）

【全長】10.7m / 全高 2.1m（マウントアームの兵装を含まず）

【固定武装】

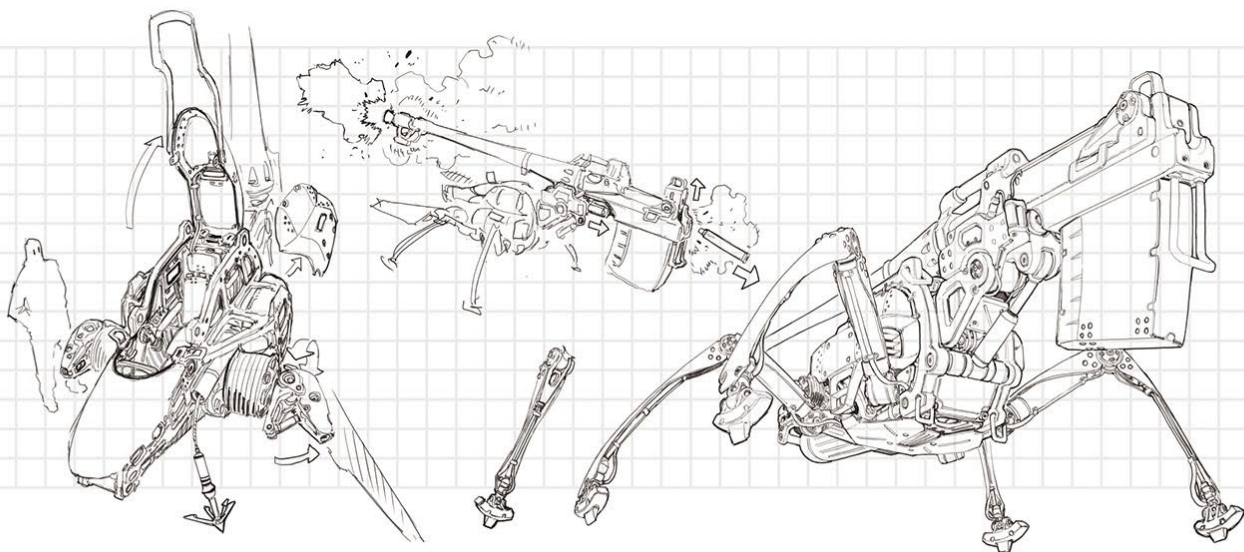
格闘用サブアーム装着・高周波ブレード ×2 or 同・12.7mm 重機関銃 ×2

ワイヤーアンカー ×2

背部ガンマウントアーム（通常は 57mm 滑腔砲 ×1 を装備）

【備考】『無人機』であるために装甲は最低限であり、またエアバック・脱出装置等の救命装置は一切設けられていない。

本作に登場する〈M1A4ジャガーノート〉は、共和国が有する自律式無人戦闘機械(ドローン)の名称だ。しかし……それはあくまで表向きの話。実用レベルの戦闘用AI開発に失敗した共和国は、迫るレギオンの脅威に最悪の決断を下す。それは『人でないものに乗せれば、それは無人機だ』という悪魔の発想であった。かくして、共和国における〈人でなし〉——“エイティシックス”たちは、本機と運命を共にし、戦場に散っていくこととなる。



東部方面
略図

MAP

サンマグノリア共和国

2~85区

共和国第1区
ハンドラー
“指揮管制官”管制室

第1区は全85区の首都機能を担う中核部で、広さは山手線内程度。レーナが指示を出す場所は、その中央部に位置する国軍本部内の管制室だ。

共和国85区

広さは約2万3000平方キロ程度（関東圏よりやや狭い程度）あり、外周部になるにつれ、人口密度が高くなっている。

大要塞壁群
〈グラン・ミュール〉

“共和国全85区を守るための”鉄壁の要塞群（正確には壁ではないが、要塞が連なって壁のように見える）。

約120km（概算）

対人・対戦車地雷原&
自律式迎撃砲 陣地
（第一陣）

〈レギオン〉の侵入を防ぐため、そして“戦力を与えられたエイティシックス”が反乱を起こしたときのために設置された無人迎撃システム。共和国本国まで、何重にも敷設されている。

東部方面軍 第一戦区
第一防衛戦隊
“スピアヘッド”基地

共和国本国から離れる事百数十キロ。東部のレギオン支配域と隣接する最前線基地。

物資は航空機で補給され、許可のない者は行き来できない。

至：レギオン支配域



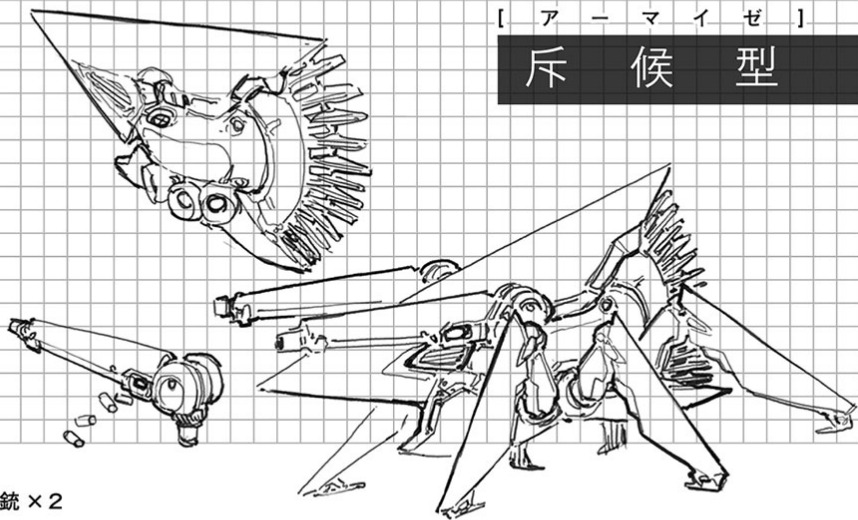
THE BASIC DRONES

[〈レギオン〉基本戦力]

名前のモチーフは「蟻」。最も多く見られる〈レギオン〉の一つ。その名の通り斥候を担当し、後述する戦車型(レーヴェ)や、後方から砲撃を担当する長距離砲兵型(スコーピオン)などへ射撃目標指示などを行うほか、敵歩兵戦力の掃討も行う。

【ARMAMENT】

高感度センサーユニット × 1 / 7.62mm 対人機銃 × 2



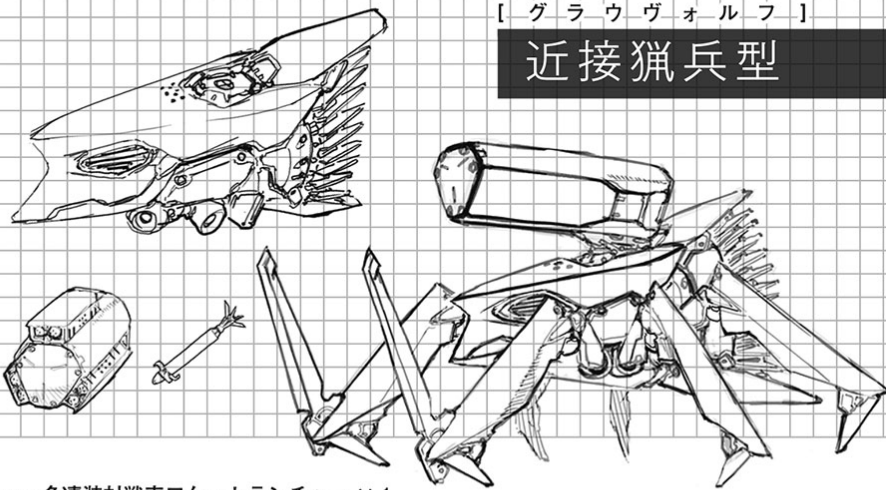
[アーマイゼ]

斥候型

名前のモチーフは「狼」。大きな特徴は前足部についた近接用のブレードで、機敏に動き、これで相手の装甲を肉食獣の如く切り裂く。また、背部に背負ったロケットランチャーもあなどれない破壊力を持っている。ただその運動性確保のためか、装甲はそれほど厚くない。

【ARMAMENT】

前足部・対装甲高周波ブレード × 2 / 背部・76mm 多連装対戦車ロケットランチャー × 1



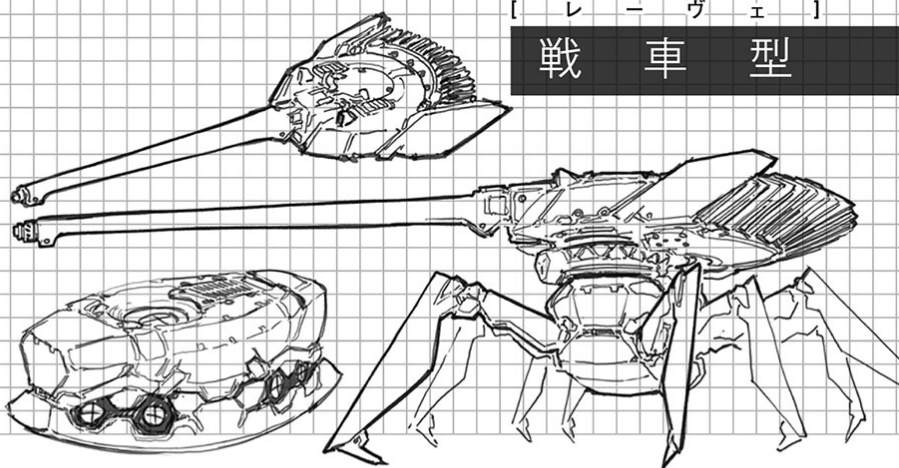
[グラウヴォルフ]

近接猟兵型

名前のモチーフは「ライオン」。由来はその強力な火力にある。上部に装備した120mm砲(ジャガーノート)の主砲は57mmなので倍以上の口径だ)はあらゆるものを粉碎する。装甲も厚いが巨体なため、林など障害物が多いところに誘い込むのが鉄板の戦術となっている。

【ARMAMENT】

上部 120mm 滑腔砲 × 1



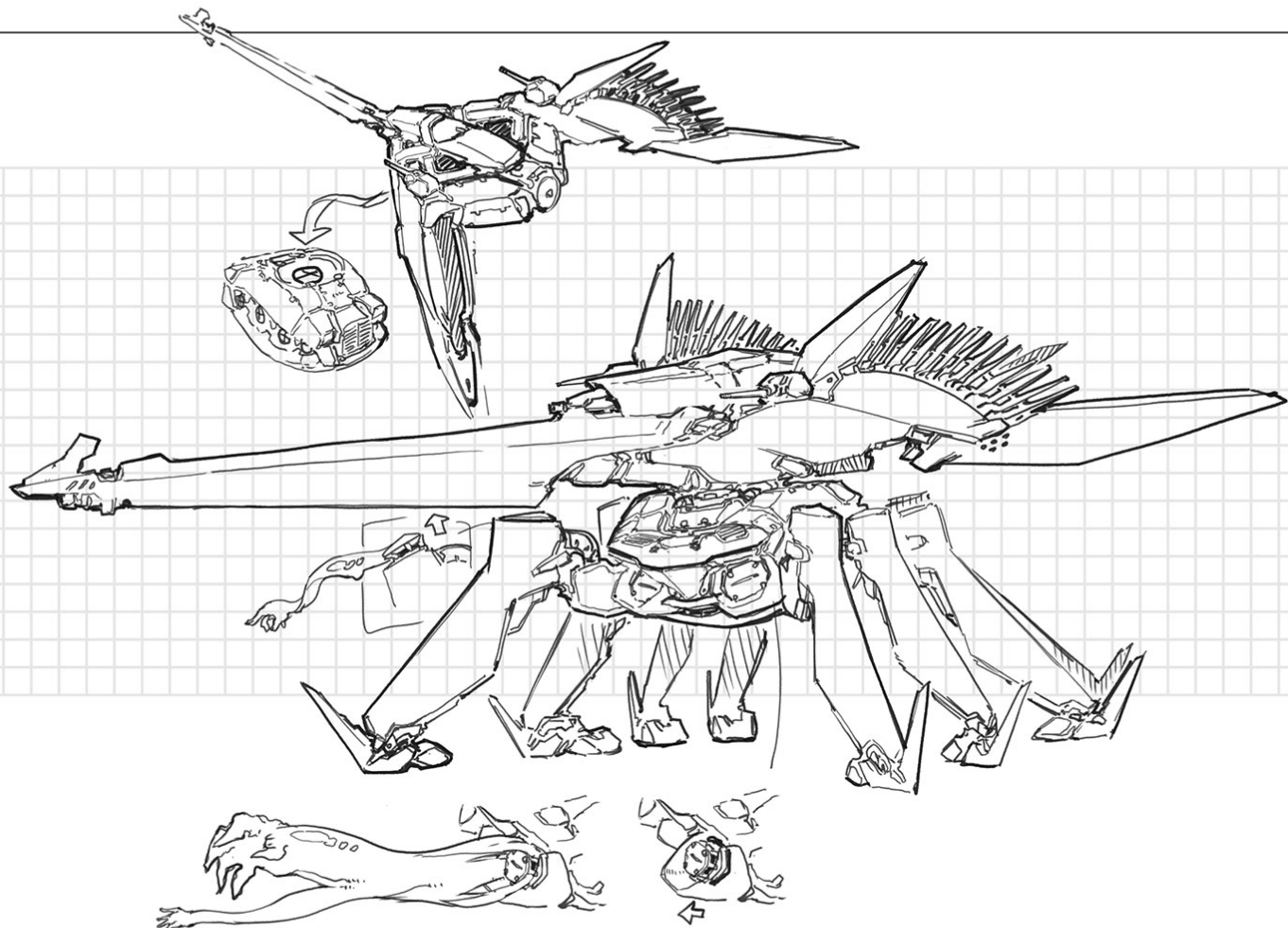
[レーヴェ]

戦車型

[mechanical design] I-IV

THE CAUTION DRONES

[〈レギオン〉要注意戦力]



[デイノザウリア]

重戦車型

[ARMAMENT]

155mm 滑腔砲 × 1
主砲同軸 75mm 副砲 × 1
12.7mm 重機関銃 × 2

[備考] スピアヘッド戦隊と会敵した本機は、他にはない特殊な流体マイクロマシンの〈腕〉を有しており、これがどのような性能を持っているかは不明である。

名前のモチーフは「恐竜」。その名の通り戦車型の由来となったライオンなど及びもつかない、凶悪な火力と恐るべき巨体を有している。主砲の口径は155mmにも及び、直撃に耐えられるものは地上にはほぼ存在しない。また戦車型における弱点でもあった小回りが効かない部分も副兵装を充実させることによりカバーしている。何より総重量100トン(普通乗用車約100台分)にも及ぶその巨体は、動くだけでもあらゆるものを蹂躪できるだろう。

[mechanical design] I-IV